

# 南十字星



今回のプラネタリウムでは、南半球にあるオーストラリア大陸に行き、日本からは見えない南天の星座をいくつか紹介していますが、その中でも、特に有名な南十字星についてお話しします。

“<sup>やしの</sup>椰子の<sup>こかげ</sup>木陰に十字星”と歌の文句にもあるように、南十字星は多くの人たちに親しまれ、また、南の島へのロマンをかきたててくれます。しかし、この南十字星は残念ながら、日本の本州からはほとんど見ることはできません。（だからこそ、よけいに人気があるのかもしれませんが……）

南十字星は南の方へ行けば行くほど、よく見えるようになるので、日本でも3月から4月にかけて北緯24度付近の沖縄の<sup>ウツリ</sup>西表島までいくと地平線すれすれに見ることができます。もう少し南のグアム島やフィリピンあたりですと、見やすい高さまで昇って、まさしく椰子の木陰に南十字星を見ることができます。

もちろん南半球のオーストラリアでは、ほとんど真上近くまで高く昇り、ほぼ1年中見ることができて、ちょうど日本から見るカシオペア座のように天の南極のまわりをまわる様子がわかります。

この南十字星はそれだけで南十字座という1つの星座ですが、意外に小さく、全天88星座のうちもっとも小さいものです。しかし、なりは小さくても、十字架を作る4つの星のうち、2つが一等星、

あとは2等星と3等星なので、よく目立ちます。また、このあたりは、南天の銀河の中にあって数多くの星や星団があり、とてもにぎやかな所です。

この南十字星、もともとはケンタウルス座の一部でしたが、15～16世紀の大航海時代にヨーロッパ人が次々と南半球に乗り出して、南天の星が知られるようになると、4つの星で作る十字架を独立して南十字星と呼ばれるようになったようです。

大航海時代に未知の大海原に乗り出した冒険者が、夜空を仰いで航海の無事を祈った南十字星は、オーストラリアやニュージーランドなどの南半球の国の国旗に使用されているように、現代の人たちにとっても、印象深い星座のようです。



南十字星



富山市科学文化センター

富山市西中野町3丁目1番19号 (〒939)

電話 富山(0764) 91-2123(代表)

☆ 星空のテレホンサービス ☆ TEL 31-0199

昭和61年/2月/日 発行